

## 歴代校長



初代 永井茂雄校長  
(故人)



第2代 高添泰藏校長



第3代 坂田力三校長  
(故人)



第4代 横松泰勇校長



第5代 西 太郎校長



第6代 境 正英校長  
(故人)



第7代 田原鎮孔校長



第8代 湯山正大校長



第9代 野田 巖校長

# 思い出のアルバム



北校舎地鎮祭



昭和42年登校風景



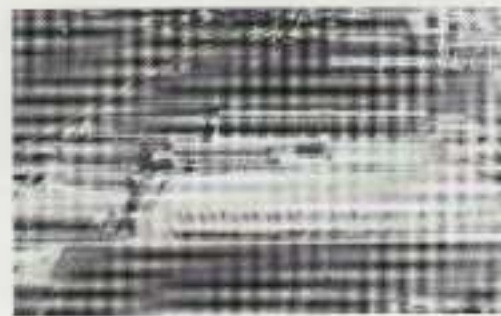
北校舎建設始まる



昭和43年



昭和38年



昭和47年



昭和41年生徒総会



昭和47年



昭和51年開校記念日遠足



昭和56年



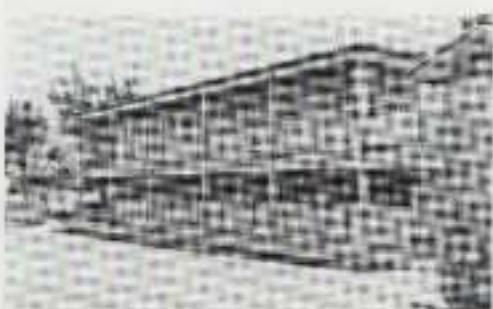
昭和51年前夜祭



昭和56年新館の特別教室棟



昭和52年内科検診



昭和56年新築の部室



昭和54年北高会館



昭和56年交通安全標語



校地の整備



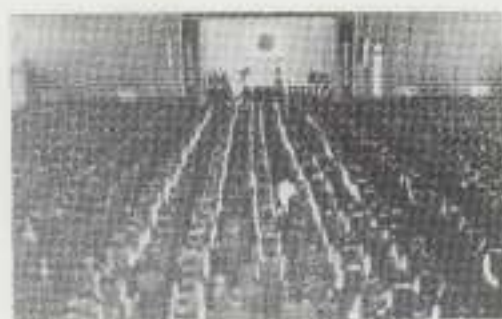
校旗制定



開校記念マラソン大会



生徒会長立候補



十周年記念式典



文化祭中庭の演奏会



北高食堂風景



正門通り初め



体育祭応援団



久重登山



前夜祭(ストーム)



体育祭集団演技



台風接近下のストーム



普通教室棟(左)と特別教室棟(右)



昭和57年



昭和57年

歴代応援アーチ

1980





81

82

1983







84



85



1986



1989





1990



1991





1992





「野あざみ」  
平成4年  
吉田 達一



平成4年9月10日付 佐賀新聞掲載

## 食堂購買部の価格推移

年月	41・2		42		43		44		45・11		46		47		48・1		49		50		51		52		53・9		54		55		56		57		58		59		60		61		62		63・9		64・1		65		66		67		68		69		70・4	
全 食			70								90						110	150			220				250						280				300	350									250															
チ ョ ー ン			30				30				40				80						90						90				100				100	100									110															
エ ー ス			70				80				100				180				200				230				250	250					280										280																	
い な り (汁)			50				60				70				90				120								130	130					140								140																			
ま ち だ ん			30				40				50				110				120								150	150					170								170																			
てんぷらうどん			40				50				60				140				150								180	180					200								200																			
も ち だ ん																			150				250				280	300					300						320																					

上記以外にもピラフ、焼きそば、五目飯、冷し中華、冷しうどん等四季折々にメニューに変化をもたせています。

食堂利用者は平日80名～100名程度ですから席はゆっくりあります。一年生の方も上級生に遠慮することなく御利用下さい。

### お願い

お弁当持込みの人がかなりありますので、また团らんの場となっているようですが、食事時間12:45～13:10頃まで20分程度御遠慮いただければと思っています。

食事後の椅子等の後かたづけを守ってほしい。(佐竹 記)



と思う。私にとっても予想外の成績をあげてくれ忘れることの出来ない思い出となったのである。

この頃の男女選手達は高校総体、国体出



場時のことを思いながら、職場や地域あるいはママさんとしてバレーボールに頑張っていることでしょう。



## 冷静・バランス・パワー・執念

中山 暉 英  
(元バスケットボール部参与)



第4期と第10期優勝のあと、勝てそうで勝てなかった男子バスケットが、第18期以降高校総体4連覇を果たした。

この時は、佐賀北校創立期の監督・生田先生（通信制在籍）を再びコーチとして迎え、熱心な保護者の方を中心に後援会を組織「父母の会」も生まれ、素質と意欲あふれた選手たちの活躍をバックアップする環境は十分であった。

1年目。主将江原。生島、小井、木下ら技術的には優れていたが、センター不在であった。180cm以上の選手をそろえた佐賀工戦は、まるで林の中での試合であった。

速い動きとパス、徹底したフォーメーションで、完璧なシュートチャンスを待つ。

その冷静さは、ベンチも驚くほどであった。

2年目。主将野中。野中・新郷という抜群のシューター、2年生のフォワードセンター田中・原口を擁して、九州トップレベルと互角の力があつた。

県大会優勝予想がナント！決勝リーグ佐賀東戦、残り1分半、5点のビハインド。ペースをつかめぬ展開に、再三再四敗戦を覚悟した。原口のバスケから始まった怒涛のような攻めが90秒、逆に4点リードしてピストル。しばらく夢心地であった。

このチームを主体として国体予選の県チームは、九州大会決勝リーグへ進んだ。終了直前まで熊本県を圧倒したが、国体のキップがちらついたベンチのミスで惜敗。大

段（清和高勤務、明大卒）吉原茂典5段（佐賀学園高勤務、国学院大卒）本告豊5段（佐賀女子高勤務、中央大卒）江頭和人5段（城北中勤務、全国教職員大会3位等、国学院大卒）中園素明5段（諸宮中勤務、佐大卒）石井博善5段（富士中勤務、佐大卒）山田朝雄5段（県教委指導主事）宮原純5段（中原小勤務、中京大卒）野口善介5段（三瀬小勤務、早稲田大卒）等が活躍しています。

実業団や自営等実社会等で活躍している人達には、県内では、横尾健博（横尾タクシー専務、中央大卒）古川繁樹（県係長、東農大卒）増田憲二（日通課長、中京大卒）吉田英範（共栄銀行、専修大卒）糸山英幸（中原町役場、中京大卒）立石秀近（溝田工業、東農大卒）森英行（ホテル東急イン、中央大卒）岡正隆（大和町役場、東農大卒）森園学（中野建設、東農大卒）西原一興（中

原町役場、中央大卒）野口裕二（フラワーショップ経営、東農大卒）秋吉祐宏（保険会社、中京大卒）藤松健次（司法書士、専修学校卒）藤田直己（会社部長）立石直樹（会社専務、早稲田大卒）藤隈伸（会社専務、京産大卒）久米秀文（会社社長、中央大法卒）森金光（会社課長、東農大卒）田中勝吉（警察）笹原清人（警察、中央大卒）江頭（警察）田中（刑務官）他多数の人達が活躍している。

県外でも一流企業の管理職として多数の先輩方が活躍しています。

佐賀北高剣道部の先輩方は、教室でそして道場で学んだことを文武一道の精神をもって社会で頑張っています。

佐賀北高の皆さん方の一層努力精進を期待します。（佐賀商業高校教頭）

## 私の思い出

古川 実  
（前野球部参与）

佐賀北校創立2年目、秋の九州大会県予選で決勝戦まで勝ちすすみ、佐賀商業に惜敗して準優勝しました。その時のメンバー6人が成章中の先輩であり、先輩の勧めもあって、賢実剛健・文武両道を校風とする北校へ入学、同時に野球部へ入部しました。

当時のグラウンドはまだ充分ではなく、雨が降ればすぐぬかるみ、乾燥すれば表面が割れて小石がでてくる状態で、暇さえあればグラウンド整備ばかりでした。

バックネットはできていましたが、バック



ティングゲージはなく、竹を四隅に立ててネットを張り、ロープで固定して練習していました。

グラウンドの南側は低いフェンスでポプラの木が植えてあり、打撃練習ではみんなフェンス越えを目標にして頑張りました。

フェンス越えでボールが田んぼに入ると



## ●エレキ騒動見聞録

吉野英明(3回卒)

10年ちょっと前になろうか、局の関連イベントで女の子だけのアマチュアロックバンドのミニコンサートを開いた事がある。

酔いどれシスターズというそのバンドはブリブリやSHO-YAが出て来る前の時代で好奇の目でみられていたが各種コンサートでも入賞し記念のディスクを出した程の実力があつた。メンバーは全員高校生、それも北高と牛津高生で構成されていた。

彼女達に倣達がロックを初体験した時代はエレキ=不良で学校で演奏するのも処分覚悟だったと言うと「エヘッ!ウソー!信じられな〜い!」という予期された言葉が帰って来た。

昭和40年代初頭、それまでの歌謡曲に代り若者の心を捉えたのはベンチャーズ、ストーンズ、そしてビートルズを頂点としたエレキバンド(当時はまだロックバンドという呼称は一般的ではない)でありそれに続くGSアイドルバンドの一群であった。

当然、学園内でもこの熱にうかれた現象はたちまち広がり小遣いに余裕のある連中は通信販売等でトーカイやグレコのギターやアンプを手に入れて熱中したものである。

しかしこの「テケテケサウンズ」と長髪に「世間の良識ある人々」は猛反発、各所で一勢にエレキ=不良=排除の図式が出来上った。こうなると禁止、禁止の連続。

ここで若者の知恵を絞った反撃が始まる。当時、北高では予備会と学園祭が演奏の場であったが当然、エレキバンドはご法度。

でもどういふ訳かもう一方で人気のあつたPPMやブラザーズフォーのフォーカス

タイトルはOK。ガットギターにウッドベース主体で単にエレキが入っていないというだけでだ。しかし学生に圧倒的に人気を誇るエレキだけに当時の目立ちたがりキッズはこれにめげない。対抗策を考え抜く。

1)エレキだけ体育館ソファの幕の中に入る。

2)ガットギターに増幅マイクを取りつけアンプにつないだものを用意する。

「おい、こりゃエレキじゃなとか(先生)」  
「いいえ、フツのギターじゃ聴こえんけんマイクばつけどとつとです。クラシックギターのコンサートでもやりますばい(生徒)」  
「……ウヘン」ホッとするのも束の間、本物のエレキに目を止めて「こりゃ違うとか」すかさず「同じもんです。メーカーの違うだけで、ハイ!」「怪そうか、やって良し!」という具合。先生方もエレキの実物を見た事のある人は少なかったのですよ。

音程は外す。アンプからコードは抜ける。ヒューズが飛んでしばしば中断、という稚拙な演奏でもただテケテケと音が鳴ればそれだけで体が熱くなるステージだったことは間違いない。中には夢中で踊り出す者もいる。ある時、ステージ上に百人位が殺到してこれも世の大人達の指弾を浴びていたモンキーダンスを踊りだしたからたまらない。全員、キッーイおとがめを受けた。

入学定員700名で13クラス、戦争を知らない子供達と旧世代の葛藤が社会の随所に表れ始めた不思議な熱気に包まれた時代。

今は昔、四半世紀前の一コマである。

(朝サガテレビ)

## ●我が母校を振りかえり

嘉村幸彦(9回卒)

高校時代はと考えると、突然、学生服に身を包んだ一高生が北高のグラウンドに立っているのがみえてきた。

世間を知らない唯、クラブ活動、受験勉強と日々を送っていた数十年前にタイムスリップしていた。

何故かしろ2年生の記憶がブツリと消失している。

一年生は入学の感動にあふれ、3年生は最上級生という自信、しかし受験の重圧、それを逃避するかのように何回も繰り返した失恋、そして文芸部荒らし。と充実した日々をおくっていたからかもしれない。

三年生というと友達の数からいっても、

この時の友達が一番多いようである。そして一番気が合う仲間でもある。

町で同級生に逢う。気持ちの良いものである。同期の桜とでも云おうか。何かホッとするものがある。

長話をするわけでもないが挨拶と明るい笑顔を送してもらえばそれで良い。それで彼女の彼女の人生までもがわかる様な気がしてくるから不思議だ。

いつまでもヨッと手を挙げ、明るい笑顔で挨拶してくれる友でいたいものだ。

お互いにそしていつまでも……。

(嘉村司法書士)



切り替え、42年には学年制に準ずる教育課程を実施し、学級担任制も確立し、現在の指導体制に徐々に接近した。44年には、第一回新入生宿泊研修会が実施され、脱落防止活動の推進、面接指導会場の整備、指導陣の強化が進んだ。

#### 円熟そして変革期

昭和49年以降は入学者数が毎年300名を越え、昭和53年には実に393名の入学者をみた。その間、卒業生数も昭和49年には172名と、昔の通信制を知る人にとっては驚くべき数となっている。このような円熟期を象徴するかのように、昭和52年に、待望の通信専用教室が完成した。しかし、近年の高校入学率の増加は通信制への入学数に影響を与え、昭和53年度をピークに、その後徐々に減少しつつある。しかし、入学生徒数は減少しつつあるものの、通信制の内容には、

今日の社会状況を見事に反映しているものが三つある。一つは、高等学校全日制からの転編入の増加が顕著であるということ。一つは、生涯教育の立場から、高年齢者・主婦層の増加が著しいということである。この生涯教育というものは、今日の教育制度の欠陥を救うものとして、社会的関心が日毎に高まっている。あと一つは、技能連携教育として修業年限三年以上のコースを設置したことである。このように佐賀北高等学校通信制の役割は想像以上に重いものと考えられる。従って今後の通信制は、当然これまでと違った道を考えねばならなくなってきている。今の通信制はこのような社会状況に即対応できる能力を十分に蓄積していることは、過去の実績から明らかである。

## 思い出



平成3年度北高通信制卒業式



三校分断後の定通総体の入場行進



第1回佐賀北高校通信制新入生宿泊研修会  
S44. 5. 10~11 (青年の家)



体育大会 (平成3年度)



生活体験発表 (平成3年度)



全国定通総体バレーボール (平成3年度)



通信制の機関紙  
(昭和24年4月創刊)